

独立行政法人自動車事故対策機構の平成29事業年度評価結果の主要な反映状況

1. 役員人事への反映について

役員人事への反映	中期目標に定められた業務について、中期計画に沿った年度計画が順調に達成され、主務大臣による平成29年度の総合評価が「B」評価であったこと等を踏まえ、役員解任等は行わなかった。
----------	---

2. 法人の運営、予算への反映について

評価項目	平成29事業年度評価における主な指摘事項	平成30及び令和元年度の運営、予算への反映状況
国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項	<p>(安全指導業務等 民間参入の促進)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>民間参入の事業者が増えてきているのは良いことと考えるが、質の維持・向上が重要。</li> <li>民間参入事業者が増え、安全意識の裾野が広がっていることは良いことであるが、事業用自動車の重大事故がなくなる。問題は、適性診断をドライバーに受診させないような一部の事業者である。お金もない、人もいない、そういう事業者に限って事故を起こしており、このような事業者への対応が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>民間参入事業者の質を維持するための支援として、カウンセラー教育・訓練及び「指導講習認定機関連絡会」を開催し、指導講習テキストの内容や法令改正等のポイントを教示するとともに、年度計画を大幅に上回る指導講習教材の頒布及びナスバネットの提供を行っており、引き続き、参入後の安全指導の質の確保に向けて取り組むこととしている。</li> <li>事故惹起等の事業者への対応については、国が行う自動車事故の発生の防止のための対策に応じるために、機構の安全指導業務等の体制を確保しつつ、適正化機関が実施する巡回指導の支援や法令改正等に応じた指導講習を実施しており、引き続き、対策に応じた業務を実施していくこととしている。</li> </ul>
	<p>(療護施設の設置・運営 治療・看護の充実)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>療護施設の設置・運営について、対象者の声を十分考慮しながら今後の委託病床のあり方等について、引き続き検討を進めていく必要がある。</li> <li>患者の様態は毎年違うことから一概に脱却者数という尺度だけで捉えるのではなく、全退院患者のうちどれだけの人が上向きに回復したか等を考慮して評価をすべきではないか。B評価で問題ない。</li> <li>脱却者数だけでなく、総合的に評価をすべきと考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>療護施設の設置・運営について、被害者団体等との意見交換会等を踏まえ、平成30年度に療護施設の空白地域となっている地域に「小規模委託病床」を設置し、患者の受入れを開始したとともに、更なる空白地域の解消を図るため、令和元年度においても当該病床を設置する予定。</li> <li>平成31年度計画において、脱却者数について、脱却状態と認められる者を含めるとともに、ナスバスコアの改善を図っていくことについて、総合的に評価することとしている。</li> </ul>

<p>(療護施設の設置・運営 知見・成果の普及促進、在宅介護者への支援)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標を上回る成果を達成しているためA評価が妥当であるが、件数だけでなく内容についても職員はしっかり把握をしておくべき。学会発表するだけでなく良い内容の物があれば、論文にすべきである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員が各種学会に参加し、学会発表の内容の把握に努めるとともに、一部の療護施設においては、学会発表のみならず論文の投稿を行ったところであり、引き続き学会発表の内容の把握等に努めていくこととしている。</li> </ul>
<p>(介護料の支給等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護料受給者の交流会については、全支所において開催案内を行ったものの、3支所においては受給者の体調不良や積雪の影響などのやむを得ない理由により開催できていないため、次年度以降は、受給者等の都合や気候面等にも配慮しながら、交流会の開催を企画する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流会の開催企画にあたっては、受給者等の都合や気候面等にも配慮しながら、開催時期の調整を行う。</li> </ul>
<p>(交通遺児等への生活資金の貸付 貸付、精神的支援の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・貸付制度は返す側面があるので、借りたくても借りられない方もいるのではないかと。借りている方の生活状況も考慮すべきであり、給付型にすることを検討すべき。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貸付利用者等のニーズの把握に努め、その支援のあり方を含めて、現在の手法が効果的かつ効率的なものかどうかを検討し、必要に応じて見直すこととしている。</li> </ul>
<p>(自動車アセスメント情報提供業務 わかりやすい情報提供)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パンフレットの解説部分の役割が非常に大きい。今年度のパンフレットを見ると、昨年に比べて改善されている。今後も予防安全性能の使い方という面で、わかりやすく理解させるように強化していただきたい。</li> <li>・NASVAの評価を受けているということは安全性が担保されていると国民は思うはず。責任を伴っている情報提供であるということは引き続き認識をして欲しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パンフレットに関する一般の方々の意見をモーターショー等で伺うなど、引き続き改善に努めていくこととしている。</li> <li>・自動車アセスメント情報提供業務の重要性について、引き続き十分認識しながら業務を実施していくこととしている。</li> </ul>